

分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究

目的

甲状腺癌は比較的予後良好な癌ですが、癌が再発または他臓器に転移することがあります。その場合、甲状腺摘出再手術を行い、放射性ヨウ素治療を行います。このような治療の効果が得られない患者さんに対して、分子標的薬という新しい抗がん剤が有効であることがわかってきました。現在、ソラフェニブ（商品名ネクサバル）、レンバチニブ（商品名レンビマ）という2種類の薬剤が使用可能ですが、大腸癌や肺癌などと比較してまれな甲状腺癌では十分なデータがないのが現状です。

そこで、日本人の症例にレンバチニブを投与した際の有効性と安全性（副作用）のデータを大規模に収集する観察を中心とした臨床試験を行っています。

本臨床試験は国立がん研究センター東病院 頭頸部内科をはじめとする多くの施設が参加して実施されています。